

大阪大学 図書館報

Vol.36 No.2 (2002年9月)

目次

図書館と交通バリアフリー	1
電子図書館への招待④	3
教官著作寄贈図書	10
お知らせ	11
会議・日誌	11

図書館と交通バリアフリー

新田保次

世の中はめまぐるしく動いている。進歩も早い。しかし、その中であって、大学はどういうわけか乗り遅れている。世間に最先端の情報を発信する優秀な人材を抱えながら、足元の取組みは弱い。キャンパスのバリアフリー化の取組みもそのひとつだ。

キャンパスにはたくさんのバリアーがある。先だって、学生たちと一緒にキャンパスの通路や道路のバリアー・チェックを車いすで行った。日頃元気な若者も、車いすで動くとなるといろんな障害に直面し、くたくたになる。ときには転倒しそうになり、冷や汗もかく。

とくに坂がきつい。健常者ではなんとも感じない坂がひどく堪える。途中に踊り場的なフラットな部分があると休むことができるが、緩やかな坂がだらだら続くと逆走し、事故につながる危険がある。このような坂は、キャンパス内の随所に見られるが、千里門から蛋白研に向けての坂は特にきつい。

坂道の問題のほかに、歩道の横断勾配の問題がある。これは排水のしやすさを考えて勾配をつけているのだが、車いすにとっては極めて具合が悪い。とくに坂道での交差点部は怖い。交差点の端で一旦停止して、横断歩道を渡ろうと

しても停止できない。横断勾配のため車道側に流されるのだ。これも事故につながる危険箇所である。

さらに随所に雨水排水のためのグレーチングがある。目が粗い、昔のタイプが随所に残っている。車いすの車輪がそこにはまると自力では脱出できない。もちろんヒールを履いている女性たちも困る。最近のタイプは目が細かくなり、その危険性はなくなったが、それでもつい最近建てられた建物の周りに旧式タイプが使われているのには驚いた。建物は立派でも足元がこれでは興ざめである。

次にモラルに関わる問題だが、歩道や通路の入口に、堂々と単車や自転車が放置されてある。歩道段差部のバリアフリー化がなされ、車いす用の通路が確保されていても、このような迷惑駐輪のため、バリアが生じている。バリアフリー化には、ハードとソフトの両面からの対策が必要である。

1970年前後に建てられた吹田キャンパスに、様々なバリアが存在することは、当時の設計思想からしてやむをえないことかもしれないが、放置することはできない。わが国では、1981年の国連障害者年、引き続き国連障害者の10年を契機に、ノーマライゼーションの理念が浸透し、1993年には障害者基本法が制定された。これとともに全国各自治体において福祉のまちづくり条例がつけられ、94年には「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(ハートビル法)」が制定されるに至った。現在では、一層の円滑化を進める改正ハートビル法が2002年7月公布されるとともに、大阪府でも福祉のまちづくり条例見直し案が9月府議会に提案される予定である。さらに、交通関連においても、2000年11月「高齢者、障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律(交通バリアフリー法)」が施行され、鉄道駅とその周辺地域を対象にした基本構想づくりが全国各地で行われている。

社会的には、このように各種の法令が整備され、建築物と移動施設を中心に、地域全体をバリアフリー化する試みが精力的に行われるように

なったが、残念ながら国立大学は国の機関でありながら取組みが遅れている。特に図書館は、学内の人だけでなく、外部の人も利用する。様々な障害を持つ人でも、その障害ゆえに図書館の利用が妨げられることがあってはならない。しかしながら現状では先に示したように様々なバリアが存在する。その克服のためにどうすべきかを、筆者の専門である交通サイドから考えたい。

図書館を中心としたバリアフリー化の取組みを考えるに当たっては、交通バリアフリー法が参考になる。この法は、当面2010年を目標に、1日の乗降客数が概ね5000人以上の旅客施設を対象にバリアフリー化するとともに、この旅客施設と周辺の高齢者や障害者がよく利用する施設間の経路のバリアフリー化を目指すものだ。キャンパスに置き換えると、図書館本体のバリアフリー化を図るとともに、図書館へアプローチする主要道路と通路をバリアフリー化することになる。

このような事業を実施するには、まず基本構想づくりから入り、事業計画へとつなげる。そして基本構想策定段階では、高齢者や障害者などの当事者参加が義務付けられている。大学でいうと、移動に困難を感じている教職員や学生の参加を求めることになる。該当する人がいない場合は、外部の人に協力していただくことになる。いずれにせよ障害当事者などから広く意見を聞くことが大切だ。今までの経験から専門家だけの計画づくりは限界があることがわかっていく。

たとえば歩道の段差を考えてみよう。つい最近までは、歩行者に対する安全対策として、車が歩道に乗り上げられないように、15cmくらいの段差が一般的であった。これでは車いすは車道を走らざるをえず、危険極まりない。専門家に車いすの視点が欠落していたのだ。最近では、交差点部で1~2cm段差が標準となった。これは視覚障害者と車いすの人を対象にした歩行実験の研究成果によっているが、視覚障害者にとっては白杖を使うので段差がある方がよいし、車椅子の人には障害となる段差はない方がよい。両者の折り合いがつかない点が1~2cmなの

である。専門家が技術的な点は詰めるにせよ、問題点の発掘は当事者によらなければならない。

図書館にアプローチする道路や通路のすべてをバリアフリー化することに越したことはないが、予算面や地形形状などの制約が付きまとう。このとき、どの経路を優先してバリアフリー化するかが問われる。ユニバーサルデザインの考えでは、主導線をバリアフリー化することが求められる。つまり障害者も健常者も含め、みんなが使い易い経路を優先してバリアフリー化するのである。最近ではあまり見られなくなったが、かつてはエレベータを設置する箇所が主導線から離れ、目立たないところにあり、おまけに障害者や高齢者専用などの表示までであった。これでは困るのである。あくまで一部の人だけでなく、障害者も含め、みんなが使い易いデザインを迫ることが必要だ。図書館においても、この点を十分考慮してエレベータの設置箇所を決める必要がある。

こうやって優先してバリアフリー化する経路が決まると、交通バリアフリー法で示された移動円滑化基準やガイドラインに沿った整備がすすめられることになる。たとえば縦断勾配、横断勾配、歩道幅員、舗装の材質、点字ブロックの設置、車椅子専用の駐車マスの配置など多様である。さらにソフト施策として、自転車、バ

イクや自動車の迷惑駐車に対する啓発や取り締まりもある。これらを総合的に取り組んだ基本構想づくりが図書館のバリアフリー化計画においてはまずもって求められる。この基本構想は、必然的に図書館だけにとどまらない。結局、キャンパス全体の計画がどうあるべきかに連動するので、図書館から問題提起をするにせよ、キャンパス全体で基本構想づくりに着手すべき時期にきていると思う。

吹田市では、昨年、交通バリアフリー法に基づき、市内全駅と周辺地区のバリアフリー・チェックを当事者や市民の参加のもと行った。その結果を元に、今年度から基本構想策定の作業が行われている。われわれの最寄駅の北千里駅周辺も重点整備地区に指定され、やがて基本構想策定作業がスタートする。このような地域におけるバリアフリー化と我が吹田キャンパスのバリアフリー化が連動して行われると、非常に効果的だ。大学関係者のみならず来訪者にも喜ばれよう。とくに阪大病院には、近隣住民が多く訪れ、移動に困難な人もいと聞く。車いす利用者からは二輪車止めのため歩道を走行できない。何とかして欲しいとの意見もあった。そのような市民からも感謝される大学でありたいと思う。

(にった・やすつぐ 工学研究科助教授)

電子図書館への招待 その4 MEDLINE

1. はじめに

以下では、MEDLINEの概要と検索の基本点を中心に概説します。末尾に例題とそれに沿った操作説明があります。操作の詳細については附属図書館 web サイトに掲載のマニュアル <http://www.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/gaku03-3.htm> を (WinSPIRS ver.2.0 に対応)、また WinSPIRS による MEDLINE 検索の詳細については生命科学図書館ホームページ <http://seimei.library.osaka-u.ac.jp/> に掲載の解説「MEDLINEの使い方」(ただし2001.5

以降の一部仕様変更に対応)を参照してください。

以下で、データ、タグ(フィールドの標識)、検索式などの例示、および画面の表示と動作の説明は特に断らない限り WinSPIRS(4.01)の形式です。データベースの基本的な内容は外見にかかわらずどのシステムでも共通です。

2. 概要

MEDLINEは医学・歯学・看護学と関連分野の雑誌論文を対象とする国際的な書誌データベースです。米国国立医学図書館(NLM: National

Library of Medicine) により編集され、1966年以降現在まで約1170万件のデータが蓄積されています。文献の種別では、原著論文や総説の他に、エディトリアル、レター、解説記事、一部の雑報記事なども対象です。ただし雑誌に掲載されたものに限定され、また抄録記事は対象となりません。採録対象の雑誌はSERFILEで数えると2002年8月末現在で17519タイトル(廃刊誌、タイトルを変更したもの、採録中止誌なども含む；現在継続中は3946タイトル)です。論文の使用言語は英語が77%を占めています。日本語雑誌も、「日本臨床」「歯学雑誌」「看護」など157タイトル(継続中47タイトル)が含まれ、日本語論文約19万件(全レコードの1.6%)が採録されています。

MEDLINEの検索インターフェイスは、PubMedなどのフリーMEDLINEやSPIRS、OVID他の商用システム等多種多様です。本学ではSPIRSが使用できます。またSciFinderやScienceDirectNavigatorは他のリソース(Chemical Abstractsなど)を主な検索対象とするシステムですが、これらもMEDLINEを検索対象に加えています。

3. データ構造

3.1. 全体の構造

MEDLINE本体はほぼフラットな構造です。MEDLINEへの主題検索の入口となるMeSHシソーラスはtree構造で、MEDLINE-MeSHを1つのデータベース体系として見るとインデックス部であるMeSHがこれら全体を構造化する役割を担っているとみなすこともできます。ただし、ScienceDirectNavigatorやSciFinderのようにMEDLINE単独でなく他種のデータベースをも対象とする横断的な検索システムでは、シソーラス機能をサポートせずMEDLINE本体のレコードを単純に検索しています。ここで「単純」とは、たかだかレコードの内部構造に対応する程度の単純さを意味します。レコードはフィールド(項目)構造を持ち、さらに句、語などの下位構造を持っていますので、これらの構造に沿った検索(例えばフィールドを指定して検索する)は、検索システム側にそれに対応した検索機能があれば、可能です。

3.2. レコードの構成

MEDLINEの各レコードは次のようなデータから構成されています。

- a) 目的情報: 記述的な書誌データ(TIタイトル、AD[第1著者の]アドレス…)、分析的・統制的な書誌データ(AU著者、SO掲載誌・巻号・ページ、LA言語、PY出版年、PT文献タイプ…)、AB抄録、などです。書誌記述の形式はバンクーバー・スタイル(Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals)です。ただし6人以上の共著者の省略は24人までと最後の1人を記述するなど、一部に違いがあります。雑誌名はANSI準拠の省略形が使用されています。雑誌の投稿規程で「Index Medicusの略誌名」という指示があれば、MEDLINEの略誌名のことです。(記号法はシステムによって異なります。)
- b) 主題情報: シソーラスのディスクリプタ(MJME, MIME)、物質名(PN)、主題としての個人名(PS)など
- c) レコード間相互参照: コメント(CM)-レター、エディトリアル、論文が、他の論文を論評する内容であるとき、双方のCMフィールドにComment In: J Card Surg. 2001;16(4):327のような形式で相手の書誌事項が記述されます。PubMedなどweb版のインターフェイスではこの部分がハイパーリンクになっているので、批判的意見などを知るのに便利です。また訂正記事(Erratum)や撤回記事(Retracton)との関連づけもCMフィールド(リンク)に現れます。
- d) 管理情報: AN, UI, レコード所有者(RO)、更新年月(UD)など

MEDLINEはもともと索引誌であるIndex Medicus(IM)をデータベース化したものです。このため、一群の書誌データがMEDLINEレコードの目的情報(データベース検索によって引き出すべき目的となる情報)を構成しています。その後抄録の付与率が高められ、現在は付与率53%にまで達しています。またMEDLINEは主題検索を主目的としたデータベースなので、主題に関する分析的な情報が充実し、検索に重要な役割を果たします。その中核はMeSHシ

ソーラスのディスクリプタ（標目・副標目）を一定の規則で記述したMJME, MIMEのフィールドです。これに加えて、補助的な主題的フィールドであるTG, PN, RN, PSや、MJME, MIMEから分析的に取り出されたAGE, SHなどが主題情報の一群を構成しています。

4. 検索方法

MEDLINE の検索方法は、データ構造上、大別して次の3つに分かれます。

- 1) 非統制的なキーワード検索
- 2) 非主題的統制的フィールドに対する検索
- 3) 主題的統制的フィールドに対する統制的な検索 — 狭義の主題検索

以下、それぞれの特徴を簡略に説明します。

4.1. 非統制的なキーワード検索

TI, ABなどのフィールドは記述項目です。非英語タイトルの英訳、非ローマ字のローマ字表記(beta-carotene)や記号法の統一などを別にすれば、正規化の余地がほとんどありません。このため、これらのフィールドを利用した検索は、記述に沿った表現依存的な検索になります。MEDLINEの場合、具体的には、スペースなどで区切られた文字列を照合する自然語キーワード検索です。検索のしかたは、単にキーワードまたはフレーズを入力すれば検索ができます。SPIRS, PubMedを含む多くの検索システムでは、大文字・小文字を区別しません。記号(ーなど)やストップワード (and, in, ofなど)の扱い、フレーズ(として入力された複数個の単語)の実際の処理などは、検索システムによって異なるので注意してください。例えばSPIRSの場合、フレーズは個々の単語ごとに検索され、出現順にかかわらず近接度が評価されます(cd 22およびcd-22を検索してそれぞれどんなふうにヒットするか試してみてください)。

表現依存的な検索方法の長所は、簡便であること、対象となるデータベースについての知識が不要なこと、どんな検索要求にも一応は対応できることなどです。これに対して短所は、検索効率・検索精度ともに低くなりがちなことです。第1に、誤ったヒットが避けられません。綴りの一致する他の単語がヒットしたり(AIDS → with hearing aids)、主題に関係なくたまた

ま現れた単語もヒットしたりする(protein → Protein Research Institute ; children → … except for children…) ためです。第2に、語形変化や表現の多様性に対応できず、検索もれが生じます(patient ×→ patients ; kidney ×→ renal ; hand washing ×→ handwashing ; diabetes ×→ DM, IDDM, NIDDM…)。多くの検索システムでは前方一致検索が用意されています。語尾の変化はこれによって救えます(therap* → therapy, therapies, therapeutic, …) が、この方法は誤ったヒットを増やす危険がある一方(gene* → gene, genes, genetic, genetics, general, Geneva, …)、語尾以外の異同(pediatric ×→ paediatric)、表現の変異や拡散(hospital infection ×→ nosocomial infection, cross infection, nurse-to-patient transmission, MRSA outbreak in the burn unit, catheter-related fungemia…) などには対応できません。

記述項目のうちAD(第一著者の所属)は著者名で検索をして同名異人が出てきたときの絞り込みに使われることがあります。やはり同様の注意が必要です(osaka univ* with med* in ad → Osaka University School of Medicine, Osaka Medical University…; ×→ Osaka University Department of…)

実際の検索に当たっては、このような表現の変異を考慮し、かつ誤ったヒットを増やさないように注意しながら検索する必要があります。したがってキーワード検索は、「何か見つければよい」といった軽い検索には向いていますが、確実な結果を出そうとすると検索の負担がたいへん大きくなります。またある水準以上は再現率(臨床医学の用語で言うと、感度)と適合率(同、陽性的中率)が両立しません。キーワード検索にはこのような限界があるため、通常、ソーラスによる主題検索(後述)が可能な場合はまずそれを試みるのが常道です。

4.2. 非主題的統制的なフィールドに対する検索

記述形式や語彙がある程度統制されているフィールドは、フィールドを指定し、その語彙・記述形式に沿って検索することで、上述の問題をある程度まで抑えこむことができます。これらのうち主題的なフィールドについては次項で別に取り上げます。それ以外の項目は主に、

1) 主題検索やキーワード検索の結果に対する絞り込み、および 2) 書誌事項や管理情報からの検索、という2つの目的で使用されます。1) に使われる項目は、出版年(PY)、文献タイプ(PT)、使用言語(LA)などです。また、2) に使われる項目としては、著者(AU)、出版年(PY)、掲載誌(SO、JN、IS)や、固有番号(AN、UI)などがあります。

これらのうち著者は記述的な性格が強く、正規化も不徹底なので、注意が必要です。SPIRSの著者フィールドのスタイルは、2001年まではAdams-DHのようなスタイルでしたが、2001年の途中からAdams,-D-Hのスタイルに変わり、その後さらにAdams,-David-Hのようなスタイルが現れてきました。現在は後2者が混在しています。したがってSPIRSでこの著者を検索するには、Adams,-David-HとAdams,-D-Hの少なくとも2種類を検索しなければなりません。なおPubMedではこれらはバンクーバー・スタイルの例示の形式Adams DHに統一されています。(いずれも2002年8月末時点)

SPIRSではinを使って「A in B」のように検索すると、検索内容Aの対象フィールドをBに限定できます。Aにはキーワードや検索式を入れることができます。Bはフィールドのタグです。タグは画面で各フィールドの左に大文字で表示されていますが、小文字で入力しても正しく検索されます。例えば次のように使用します。

cytochrome-p-450 in pn 物質名から検索
9035-51-2 in cas CAレジストリno.で探す
bates-c-j in au 著者名から検索
pauling-l in ps 研究者の評伝などを探す
and 1078-8956 in is 雑誌を特定する
and nat-med in so 雑誌を特定する

この手法はキーワード検索でも使えます。複数の項目を指定するときはカンマでつなぎ、hiv in ti,ab (タイトルか抄録に“HIV”があるもの)のようにします。指定しない場合、SPIRSのキーワード検索はレコード全体を対象にします。

4.3. 主題的で統制的なフィールドに対する統制的な検索 狭義の主題検索

主題検索型の書誌データベースは、通常そのデータベースに固有のシソーラス (thesaurus:

概念を分類・関連づけした語彙集) を持ち、このシソーラスによってデータベース上の主題情報フィールドの語彙・記述形式が統一されています。MEDLINEの場合は、MeSH (Medical Subject Headings) という名称の大規模なシソーラスが使用されています。SPIRSで主題検索をおこなうには、まずシソーラスに入り検索しようとする主題に適合した標目 (heading; ここでは主標目 main heading) を探します。適当な標目を選びシソーラス上でSearch命令を発行すると、その主題のレコードが検索されます。

シソーラスを使用した主題検索には次のような利点があります。第1に、語彙・記述形式が統制されているため、表現の揺れ・変異・拡散による検索漏れが抑えられます。第2に、主題概念を特定した上でデータベース上の主題記述フィールドを検索するため、非主題的なヒットが排除できます。第3に、シソーラス上で概念が体系付けられているため、下位概念をまとめて検索 (explode 検索) することも可能です (Mental-Disorders → Anxiety-Disorders, Personality-Disorders, Schizophrenia…)。第4に、主題情報の特徴に沿ったより精密な検索ができます。シソーラスが副標目 (subheading: その主題がどのような切り口・アスペクトから扱われているかを記述するために主標目と組み合わせて使用される補助的な標目) を備えている場合は、アスペクトを特定した検索もできます (Spinal-Cord-Injuries – complications)。また、データベース上の主題記述でその文献の主たる主題と部分的・副次的な主題が区別されているときは、そのテーマを主な主題とする文献だけに絞り込むことも可能です。SPIRSではこれらの機能がすべて実現されています。

主題検索が効果を発揮するかどうかは、シソーラスの完成度とデータベース作成者による主題分析・標目付与の質的水準如何にかかっています。MEDLINE – MeSHはいずれについてもほぼ今日望み得る最高の水準で、強力な主題検索機能が実現されています。MeSHには現在約19000を超える主標目があり、毎年新しい標目が追加されています。しかしMeSHに未採録

のごく新しい概念や詳細な事項、商品名や団体名などの固有名詞、非医学的な概念などの検索では、キーワード検索が効果的な場合もあります。

MEDLINEの主題情報フィールドの中核はMJMEとMIMEです。MJME (major MeSH)にはその文献の主な主題が、またMIME (minor MeSH)には実験手法などの副次的トピックス、主題の一側面(例えば実験動物の種別、患者の年齢階層)、その文献の中で部分的・周辺の現れる主題などが記述されます。これらの記述はMeSHによって統制されています。主題検索を行った後、MJMEでヒットしているものに限定することで、それが主たる主題となっている文献だけに絞り込むことができます。多くのレコードではMJMEと主題的なMIMEがほぼ同数与えられているので、主題検索の結果は通常これによって半分程度の件数に絞り込まれます。

5. PubMed

PubMedはNLMが自らフリーで公開しているweb版のMEDLINE検索システムです。<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/PubMed/>にアクセスすれば誰でも使えます。

5.1. 検索対象データ

データはほぼMEDLINEそのものですが、SPIRSなどで一般に提供されているMEDLINEと採録対象が多少異なります。

第1に、未完成データが含まれています。一部は出版者から編集段階で送稿されてきたデータをそのまま掲載しています。しばしば出版される前にデータが現れるため、リストの上位の文献(=最近データベースに追加されたもの)は、出版済かどうか注意が必要です。また、JBC, PNASなど幾つかの雑誌は、未出版の受理原稿がweb上でアクセスできますが、これらもPubMedで検索され、[epub ahead of print]の表示があります。

第2に、通常のMEDLINEは1966年版以降のデータを収録していますが、それ以前の遡及入力データ(OldMEDLINE)も検索できます。現在は1950年代前半まで入力されています。

以上の他、一部のオンラインジャーナル、MEDLINE採録対象誌に掲載された非医学系の

論文など、一般のMEDLINEにはなくPubMedでだけ検索できるものがあります。

5.2. 検索方法

画面上部のSearch ... for: 欄にキーワードやフレーズを入れて[Go]を押すか[Enter]キーを押せば検索できます。(myostatin OR gdf-8) AND (rat OR mouse)のようにandやorを使った検索式を入れることもできます。キーワードは大文字・小文字を区別しませんのでどちらでもかまいませんが、AND, ORは大文字でないと正しく処理されないことがあります。またSearch... for: 欄の下のバーにあるLimitsを開けると、絞り込み条件の設定もできます。

キーワードやフレーズからの検索は一見単純なキーワード検索のように見えますが、バーのDetailsを開けば確認できるように、入力された語句を解析して、キーワード、物質名、著者名、雑誌名などの種別を判断し、さらにキーワードについてはシソーラスにマッピングして主題検索とキーワード検索のorをとるなど、複雑な検索式を組み立てています。このスピードと解析能力は優秀ですが、常に検索者の意図が検索式に正しく実現されるとは限りません。PubMedはもともと簡便な検索を主眼としたシステムで、手早く何らかの結果を出すには適しています。しかし、明確な狙いを持った検索をしたいときや、込み入った検索には、SPIRSの方が適している場合が多いと考えられます。

5.3. 検索結果の利用上の注意

PubMedは上述の通り、未出版のものがしばしば現れます。特に、最下行のPMIDの後に[PubMed - in process]あるいは[PubMed - as supplied by publisher]などと表示されているものは警戒を要します。

論文のタイトルが角括弧に入っているものは、英語以外の言語で書かれた論文です。タイトルの表示の下に[Article in Turkish](検索結果一覧画面では、雑誌の巻・ページなどの後に単にTurkish)などの表示がありますので、利用可能な言語かどうかチェックしてください。この角括弧は、もともと英語でなかったものをデータベースに登録する都合上英語に翻訳したとい

う意味です。この角括弧の用法は SPIRS の TI フィールドでも共通です。

6. 例題－検索例と SPIRS の操作

SPIRS を使った検索を、例題に沿って解説します。ここでは WinSPIRS(4.01)を例にします。MacSPIRSやWebSPIRSでも検索方法は基本的に同じです。

6.1. 例題

ここでは、「エイズ患者の食道への日和見感染の診断」を扱った総説、言語は日本語か英語、出版年は2000年以降という条件で探してみます。できれば実際に操作してみてください。

6.2. 利用環境、起動

データベースの区分Aを利用申請されている講座では、研究室のパソコンからご利用になれます。WebSPIRSはCMC Academic Portalから入れます。WinSPIRS, MacSPIRSはアイコンまたはスタートメニューから起動してください。なお、図書館内では学内の方ならどなたでもID、パスワード無しで使えます。

起動すると最初にデータベース選択画面が表示されますので、MEDLINEを選択してください。年代別になっていますが、通常はすべて選択します。年代の限定は視野を狭め、しばしば状況判断の誤りや内容的に不十分な検索の原因になります。なおこの「年」は出版年ではなく、MEDLINEデータの作成年です。出版年は、検索結果が出た後で絞り込むことができます。

MEDLINE以外のデータベースは選択しないでください。相互に構造が異なるため、検索機能の一部が制限され、また検索者の意図と異なる動作をすることもあります。本当にそのデータベースを必要とする人が同時ユーザ数制限で使えなくなるおそれもあります。

[OK]で検索画面に移ります。

6.3. 主題検索

例題には主題概念として、エイズ患者、食道、日和見感染、診断の4つが現れています。最も specific な主題から検索を試みるのが基本ですので、まず日和見感染に当たってみます。画面の Search 欄に opportunistic infection を入力

し、[Enter]を押さずに画面上部の[Thesaurus]ボタンを押します。この操作でシソーラスに入り、索引を探しに行きます。Permuted Index という画面に変わり、Opportunistic Infections という見出しにヒットします。その前後を見ると別にAIDS-related Opportunistic Infections があります。こちらの方がより検索課題に近いので、AIDS-related Opportunistic Infections をダブルクリックします。この操作によって、選択された標目のページ (Term Information) に移動します (図1)。Term Informationの画面は3つに分かれ、左下にシソーラス体系上のこの概念の位置づけ－上位概念は何で下位概念は何か－が表示されます。もしも上位概念や下位概念のページに移動したいときは、ダブルクリックで移動できます。また、上の Thesaurus 欄に語句を入れて[Enter]キーを押せば索引を再検索することができます。この標目でMEDLINEを検索するなら、[Search Now]ボタンを押します。そのさい、右上のラジオボタンでexplode (下位概念も一緒に検索する) とsingle term (下位概念は検索しない) のいずれか選択できます。AIDS-related Opportunistic Infections は下位概念がないのでexplodeが無効になっていますが、通常はexplodeで検索することをおすすめします。[Search Now]ボタンを押すと、画面上に新しいダイアログボックスが開き、副標目の指定をするかどうかを聞いてきます。この段階で特に限定する必要がないときや、よくわからないときは一番上のALLを選択してください。DI-DIAGNOSIS、MI-MICROBIOLOGY、PA-PATHOLOGYなどで4つ目の主題概念「診断」がほぼカバーされそうなのでここではこれらを選んでみます。[OK]ボタンを押すと検索が実行されます。これで5000件余りのデータが検索され、検索画面上部には、#1という番号を付けて検索内容と結果件数が、下部には始めの数件のレコードが表示されます。次にmjmeフィールドでヒットしたものを、つまりこれを主な主題とするものだけに限定するためSearch欄に#1 in mjme と入力し[Enter]します。

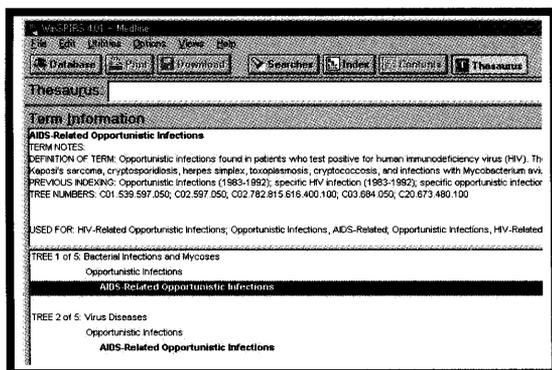


図 1

残るもう1つの主題概念、食道についても同様に検索してみましょう。注意事項として、食道esophagusではなく、食道の病気esophageal diseasesで検索すること（前者は解剖学的・生理学的な身体の部位としての食道を意味しますので、この場合は後者の方が適しています一両方を検索して和 or をとってかまいません）、explodeを指定すること、また、副標目は特定せずALLで検索してください。この結果もmjmeだけに絞り込みます。

6.4. 論理演算、絞り込み、キーワード検索

さてここから結果を掛け合わせ、さらに他の条件も加味して絞り込んでいきます。まず、上記の主題検索の結果（MJMEのヒットに絞った結果をそれぞれ#2, #4とします）を掛け合わせ、両方でヒットした文献を求めするため、Search欄に #2 and #4 を入力して[Enter]を押します。演算子 and（前後にスペース）は論理積、orは論理和、notは論理差です。このほか近接出現の演算子 near（同一句内）、with（同一フィールド内）などが使えます。これらの前後は検索結果の番号、キーワード、フレーズ、検索式などどれでも使用できます。また括弧を使用して複合的な式を作ることができます。

この掛け合わせで結果(#5)の件数は一挙に40件ほどに減りました。だいたい100件以下くらいになると、目で1件ずつチェックできますので、通常はこの辺りでいったん検索を打ち切って内容を評価し、さらに他の検索方法が残されていないかを検討します。しかしこの例題ではこのままもう少し先に進んでみましょう。

次に使用言語による絞り込みをします。

MEDLINEには多種多様な言語が現れるので、利用不可能な言語の文献はこの段階で排除しておきます。Search欄に #5 and (la=english or la=japanese) と入力し[Enter]を押します。「la=english」は「English in LA」と同じです。LA（使用言語）のように絞り込みにしばしば使われる幾つかのフィールドは、「=」も使えます。出版年は「>」「<」「-」も使えるので、出版年で絞るときは #5 and py>1999 あるいは #5 and py=1997-1998 のようにします。（図2）

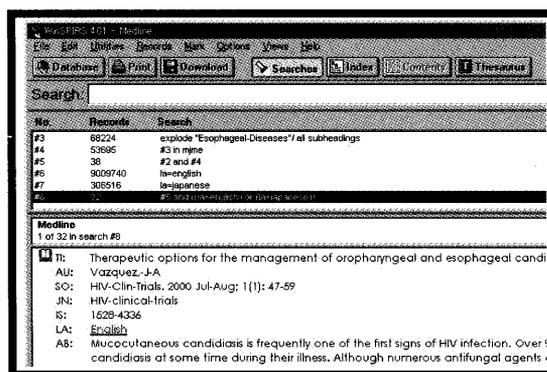


図 2

さらに、総説だけ見つけ出します。画面右上の[Limit]ボタンを押すと絞り込み用の画面が開きます。LAやPYによる絞り込みもこの画面からできます。左のフィールド一覧でPT-PUBLICATION TYPEを選んでください。右に使用可能な値の一覧が出るのでREVIEWを選びます。[OK]を押すと、現在画面に表示されている検索結果の中でreviewだけを選びます。数件の結果が画面に出ますが、一見して適当な文献がごく限られていることがわかります。上述の条件のうち、出版年による条件は保留にしてここで打ち切るのが賢明なようです。

6.5. 検索の改良

検索というのは本質的に試行錯誤なので、検索の各段階での結果評価—検索戦略や手法の再検討というプロセスは非常に重要です。SPIRSは検索速度が非常に速く、試行錯誤が柔軟にできるという点が実用上の大きな長所です。上掲の例では結果件数がきわめて少ないため、何か重要な検索もれがないか、検索課題の方向性が正しいかが、当面の検討課題になります。まずAIDS-related Opportunistic Infectionsが

適切だったかどうかです。AIDSは日和見感染の条件となる免疫能力低下の原因に過ぎず、このような総説がAIDSに特異的でない日和見感染をも視野に入れて書かれる可能性を考えるならば、AIDSという要素は過大視するべきではないかもしれません。つまりAIDS-related…ではなく単なるOpportunistic Infectionsから検索の方が良い結果が出る可能性があります。また副標目の扱い方についても幾つか再検討の余地がありそうです。

多くの場合、検索課題そのものに遡っての再検討も必要となります。例えば視野を食道に限

局したのは適切だったでしょうか。この例題はあくまでも例題に過ぎませんが、実際の検索課題は、背後に何らかの研究あるいは臨床上の具体的な関心を持っていますので、それに照らして問題そのものを見直す作業が求められます。

これまでの検索結果で良さそうなレコードのMJMEフィールドにどんな標目が現れているかを見る(画面下の[All Fields]ボタンを押すと全項目が表示され、[Brief Fields]ボタンで簡略表示に戻ります)のも、検索戦略の組み立てを再検討する上で有用な手法です。

(文責：生命科学分館参考調査掛・諏訪敏幸)

mktb@library.osaka-u.ac.jp

※MEDLINEの講習(平日午前のみ、数人単位で)、検索相談をご希望の方は上記担当者までご相談下さい。

■■■■■■ 教官著作寄贈図書 ■■■■■■

(2002.6~8)

本 館	
田 中 規久雄 (法、専任講師)	IT社会の法と倫理 / サラ・バース著; 日本情報倫理協会訳 東京:ピアソン・エデュケーション, 2002
中 戸 義 禮 (基、教授)	創造性を育てる学習法 / 中戸義禮著 岡山:大学教育出版, 2001
紀ノ岡 正 博 (基、講師)	ティッシュ・エンジニアリングの展望 / 生物工学会編 名古屋:三恵社, 2002
川 端 亮 (人、助教授)	高槻市民の社会とコミュニティに関する意識調査 / 川端亮、吉川徹編 吹田:大阪大学大学院人間科学研究科, 2002
西 田 正 吾 (基、教授)	ファジィの科学と思想 / 合田周平, 寺野寿郎編集担当 東京:日刊工業新聞社, 1993 (講座ファジィ / 日本ファジィ学会編; 別巻1)
	ヒューマン・コンピュータ交流技術 / 西田正吾, 佐伯胖共著 東京:オーム社, 1991
	メディア工学 / 西田正吾著 東京:朝倉書店, 1996
	情報メディア工学 / 美濃導彦, 西田正吾共編 東京:オーム社, 1999.6 (新世代工学シリーズ)
	情報媒体工程 / 美濃導彦, 西田正吾編; 白玉林[ほか]訳 北京:科学出版社, 2001 (21世紀工程技術新型教程系列)
	ヒューマンコンピュータインタラクション / 岡田 謙一[ほか]共著 東京:オーム社, 2002 (IT Text)
微生物病研究所図書館	
野 島 博 (微研、教授)	先端バイオ用語集 / 野島博 東京:羊土社, 2002

(敬称略、受付順)

■■■■■■■■ お知らせ ■■■■■■■■

●電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会開催

国立大学図書館協議会の電子ジャーナル・タスクフォース主催による「電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会(西地区)」が附属図書館本館を会場に8月28日、29日の2日間にわたって開催されました。これは各大学における電子ジャーナルユーザー教育プログラムの改善をはかるために昨年度より実施されているもので、西日本の各国立大学より50名の担当職員が参加し、基調講演、各出版社による電子ジャーナ

ル利用法講義、他大学の事例報告等を受講、また、最後の全体討議では活発な意見の交換が行われました。この研修の成果を持ち帰った参加者がそれぞれの大学で電子ジャーナルの利用者教育、利用促進、サービス改善に成果を役立てることが期待されています。

なお、教育用計算機システム端末の使用にあたって便宜をはかっていただいたサイバーメディアセンターの方々に感謝いたします。

■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■

第9回研究開発室会議

6. 4 (火) 13:00～14:30

1. 学術情報発信に向けた図書館機能の改善策について、協議した
2. 平成13年度事業報告及び平成14年度事業計画について、協議した。

吹田地区運営委員会

6. 18 (火) 15:00～17:00

1. 附属図書館の中期目標・中期計画について、審議した。
2. 外国雑誌の重複調整について、協議した。
3. 学生用図書の選書について、協議した。
4. 情報科学研究科からオブザーバーとして、本委員会への出席を依頼することとした。

図書館体系検討小委員会

7. 4 (木) 15:00～17:30

1. 電子ジャーナルの整備について、協議した。
2. 附属図書館の中期目標・中期計画(案)について、協議した。
3. 大阪大学図書館委員会規程の一部改正を承認した。
4. 大阪大学における学術情報発信に向けた図書館機能の改善について、協議した。

分館長会議

7. 4 (木) 図書館体系検討小委員会終了後引き続き

図書館委員会の進行等について、協議した

図書館委員会

7. 12 (金) 15:00～17:00

1. 平成14年度予算配分案を承認した。
2. 電子ジャーナル経費の部局負担方式(案)について、協議した。
3. 附属図書館の中期目標・中期計画について、協議した。
4. 図書館委員会規程の一部改正を承認した。
5. 大阪大学における学術情報発信に向けた図書館機能の改善について、協議した。

生命科学分館運営委員会

7. 29 (月) 13:00 ~ 14:30

1. 平成 15 年度生命科学分館購入雑誌：
部局分担金・外国雑誌センター館・電子ジャーナルについて、協議した。
2. 平成 14 年度生命科学分館備付学生用図書及び視聴覚資料の選定について、協議した。
3. 製本費の予算配分について、協議した。

吹田地区運営委員会

7. 30 (火) 10:00 ~ 12:00

1. 平成 14 年度吹田分館図書資料費予算執行計画案を承認した。
2. 附属図書館の中期目標・中期計画について、審議した。
3. 外国雑誌の重複調整について、協議した。

■■■■■■■■ 日 誌 ■■■■■■■■

- H 14.
- | | | |
|------------|---------------------------------------|--------------|
| 6. 04 | 第 9 回研究開発室会議 | (本館) |
| 6. 06 | 第 71 回近畿地区国公立大学図書館協議会 | (神戸商船大学) |
| 6. 18 | 吹田地区運営委員会 | (吹田分館) |
| 6. 26 ~ 27 | 第 49 回国立大学図書館協議会総会 | (鳥取市・県民文化会館) |
| 7. 01 | 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会 | (文部科学省) |
| 7. 03 | 外国雑誌センター館会議 | (国立情報学研究所) |
| 7. 04 | 図書館体系検討小委員会 | (本館) |
| 7. 04 | 分館長会議 | (本館) |
| 7. 12 | 図書館委員会 | (本館) |
| 7. 23 | 生命科学分館図書選定小委員会 | (生命科学分館) |
| 7. 25 | 吹田地区運営委員会資料選定小委員会 | (吹田分館) |
| 7. 29 | 生命科学分館運営委員会 | (生命科学分館) |
| 7. 30 | 吹田地区運営委員会 | (吹田分館) |
| 8. 26 | 国立大学図書館協議会「法人格取得問題に関する附属図書館懇談会」(東京大学) | |
| 8. 28 ~ 29 | 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会 (西地区) | (本館) |

大阪大学図書館報 Vol. 36 No. 2
発行所 大阪大学附属図書館

通巻 144 号 2002 年 9 月 30 日発行
豊中市待兼山町 1 の 4 06 (6850) 5070
e-mail : sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp